

本年の保育界の展望

一年 頭 語

國運復興を志す、教育の新發展の趨勢益々盛なる中に、昨年の幼児教育界の活動も亦、めざましいものがあつた。各地幼稚園、保育所の復舊増設は着々として進み、同志提携協力の諸會合も、到るところ盛況を呈した。その中にも、全國保育連合會の組織の確立と、日本保育學會の創立とは、全國的のものとして、最も顯著なものであるが、その奈良における千五百會集の大會と、東京における充實せる研究有志會とは、共に豫期を超える壯觀であつた。その他、東京都保育會、關西保育連合會を始め、各地保育會皆、戰前に勝るとも劣ることなき活氣を以て日本の保育界の將來に、堂々の希望を約束したのであつた。

本年において、昨年の勢の盛り上るところ、愈々その隆昌を増大することは、保育界の確信と期待とである。全國保育連合會は、本夏を期して、新潟市に開催せられるべく、地元の準備既に着々として進捗し、委員諸君と本部事務局との打ち合わせのための派遣も上京もあつて、周到の計畫が用意されつゝある。日本保育學會も亦、幼児心理、幼児生理、幼児教育の各方面の眞摯な研究家の研究を待つて、保育の學的建設のために精進しつゝある。その他各地各種の保育活動も亦、皆かつ目される。

しかも、この隆昌の間にも、幼児保育の充實のために、多くの所謂あいぢあり難點なしとはしない。その中でも、幼児教育者の養成については、逕直に言えば、憂慮せられるところなしといえない。教員養成は、新教育充實の第一最大の要件であるが、現下のありのまゝにおいては、なお晏如たり得難いものが、各方面にあるが、幼稚園教員の豊富なる供給について、昨年の心配であり、本年の解決と實現に殘されているといわなければならぬ。折角、幼稚園を學校教育法の體系の中に入れた文教當局の、この方面における一段の熱意を切望せざるを得ないし、保育界全體の奮闘を促進せざるを得ない。但しわれらは何等悲觀するものではない。成るべきものは必ず成らざるべからずという確信の下に、洋々の希望を以て、昭和二十四年を展望するものである。